SMON 患者全国実態調査成績

第1回調査（昭和42，43年全受診患者調査）と
第2回調査（昭和44年以降新受診患者調査）の総括

— 昭和47年3月末現在 —

担当：重松逸造，柳川　洋，種村道彦，石川澄子（国立公衆衛生院疫学部）
石丸隆治，谷　修一（厚生省公衆衛生局防疫課）

要　　約

1　調査の目的

SMON患者ならびに同容疑患者の全国的な発生状況を把握するとともに，病状，経過，疫学的特性などを明らかにすること。

2　調査の方法

昭和４５年3月２０日に当協議会総会の席上で報告した第１回全国調査では，昭和４２年1月１日～４３年１２月３１日の２年間に全国の医療機関に受診したすべてのSMON患者ならびに同容疑患者（新来，再来，入院のすべてを含む）について，上記調査の報告書（昭和４５年3月２０日当協議会発行または当協議会報告書№1掲載）に添付した調査個人票を作成するよう，厚生省の協力を得て各都道府県，指定都市の衛生部局に依頼した。

昭和４６年9月３０日に報告した第２回全国調査の総括では別紙調査個人票を用いて昭和４４年1月1日～４５年6月３０日の間の初診患者（容疑例を含む）を一括して４５年9月末までに，また45年7月１日～４６年3月３１日の間の初診患者は毎月分を翌月末までに提出するよう依頼した。しかし実際にはキノホルム問題等のため調査個人票の一部改正を行なったこともあって，府県によって最終報告時期に差がみられ，前回の報告書を集計した昭和４６年９月３０日現在，最も遅い県では昭和４５年3月まで，最も早い県では昭和４６年６月まで報告されていた。また今回の報告書を集計した昭和４７年6月３０日現在，最も遅い県は昭和４５年３月まで，最も早い県では昭和４７年３月まで報告されていた。

なお，集計はこれまでに報告された重複例をすべて除外して行なった。

3　調査の結果

(1)　調査個人票受理枚数（重複を含む）は，前回１０,０８６枚，今回４０６枚，報告施設数は前回2,4３４施設,今回分を加えると2,5１２施設となる。各県別の最終報告年月日は１４県が４７年1月以降，6県が４６年7月～１２月となっており，その他の県は４６年６月以前となっていた。(表1)

(2)　現在までの総受理枚数は１０,４９２枚，患者の実人員は前回報告分8,９１１名，今回までの増加分３３８名，計9,2４９名となる。（表２）

(3) 全患者の9,249名（人口10万対9.2）のうちSMON確実例は5,839名，同容疑例は3,410名であり，初診年次の明らかなものについてみると，41年以前1,349名，42年1,374名，43年1,794名，44年2,418名と漸増しており，45年1,652名とはじめて減少の傾向をみせ46年には95名と著減していた。なお47年は一部の府県のみより報告されており，5名の患者がいた。また確実例に対して容疑例の占める割合は平均1.7：1で，各年次とも大差はなかった。これらの成績を提出府県別（表3）患者の現住所別（表4，図1，2）および発病府県別（表5）に観察した。

(4) 昭和42，43年平均および44，45年平均の提出府県別および現住所府県別初診患者率（確実＋容疑）をみると全受診患者率（図1，2）の場合とほぼ同じ傾向を示し，また42，43年と44，45年の間でも著明な変化はなく，中部，近畿，中国，四国に高率県が多くなっていた。

なお，46年，47年はすべての府県で著明に減少していた。（表6，図3，4）

(5) 月別年次別に初診患者数（確実＋容疑）をみると，42年は8月に，43，44年は9月にピークをつくりつつ年次とともに各月の患者数が増加している。45年は1，2，3月がそれ以前の3年間の同月よりも多くなっているが，4月以降は他の年次と異なり，増加傾向が鈍り7月までほぼ横ばいとなる。8月以降は7月までと比較して急減の傾向があることは確かである。（表7－1，7－2，図5－1，5－2）以上を初診患者の発病月別にみると，昭和45年10月以降，特に46年に入ってからの減少傾向はさらに著明で，46年1月以降は僅か23名の発病者となっている。（表8－1，8－2，図6－1，6－2）

(6) 月別年次別にみた腹部症状と神経症状の発現状況は(5)の初診の場合よりピークが1月ぐらい前にずれているだけで，その他はほぼ同じ傾向にある。（表9，10）

(7) 腹部症状発現より神経症状発現まで，腹部症状発現より初診まで，および神経症状発現より初診までの期間別患者数の分布は前回報告分とほぼ同様の傾向にあった。（表11，12，13）

(8) 性，年令別全受診患者率（人口10万対）は前回同様男女とも60才台にピークをつくり，かつこの年令層で男女間の開きが最も大きくなっている。全年令平均では男6.1，女11.8である。

初診患者率の場合も全受診患者率とほぼ同様の傾向を示しており，昭和43年初診の率は全年令平均で男1.1，女2.4，昭和44年男1.5，女3.1，昭和45年男1.1，女2.1となっていた。昭和46年以後は男女とも著減していた。（表14，15，16，図7）

(9) 職業別全受診患者率（人口10万対）は医療従事者（19.0）と事務（20.4）が最も高く，主婦（15.0），その他の専門職（15.5），無職，その他（16.0）などがこれに続いている。年次別初診患者率も同様の傾向にあった。（表17）

(10) 性，年令別にみた受療状況，症状，経過等は前回と大差なかった。（表18）

(11) 報告患者が臨床診断指針にどの程度合致しているかをみると，確実例の場合腹部症状なしが1％，神経症状の徐々に発現したものが20％，知覚障害なしが2％，異常知覚なしが5％等となっており，容疑例の場合この順序にそれぞれ7％，37％，7％，9％であった。（表19）

(秘)

スモン調査研究協議会

スモン(腹部症状を伴う脳脊髄炎症)調査個人票

(該当する欄に記入し，該当する記号を○でかこんでください。ただし※の枠内には記入しないでください。枠内の数字は集計のためのもので特別の意味はありません。この調査票はスモンの実態把握のためにのみ使用するものであり，その他の目的には使いません。又，個人の秘密は厳守致します。)

※				
1	2	3	4	5
6	7	8	9	10

貴施設名　　主治医氏名

所在地　　記載年月日　昭和　年　月　日

フリガナ 患者氏名		性	1.男 2.女 [11]	生年月日(貴施設初診時年令)	1.明 2.大 3.昭 [12] [13|14]年 [15|16]月 [17|18]日([19|20]才)
患者職業(具体的に)			※ [21|22]	世帯主氏名および世帯主との続柄	
患者現住所	都道府県　郡市区　町村		※ [23|24|25|26|27|28]	神経症状発現時の患者住所	都道府県　郡市区　町村 ※ [29|30|31|32|33|34]
腹部症状発現年月	昭和 [35|36]年 [37|38]月・不明	神経症状発現年月	昭和 [39|40]年 [41|42]月・不明	貴施設の初診年月日	昭和 [43|44]年 [45|46]月 [47|48]日
診断	1.確実なスモン　2.スモンの疑い [49]	診断時の受療状況	1.入院　2.通院　3.その他(　) [50]		
診断時の状態	歩行：1.不明　2.不能　3.かろうじて可　4.ほぼ正常～正常 [51]			経過	1.不明　2.悪化　3.不変　4.軽快 5.治ゆ　6.死亡(昭和　年　月)
	視力：1.不明　2.全盲　3.低下　4.正常 [52]				死因名(　) [53]
家族・同居人からの発病者	1.不明 2.なし	3.あり(氏名:	世帯主との続柄:	発病年月: 昭和　年　月) [54]	
院内感染の可能性	1.あり 2.なし	3.不明	備考　周辺地域での発生の有無及びその他御意見があればお書いてください。		※ [55]

スモンの臨床診断指針

スモン調査研究協議会

必発症状

1. 腹部症状(腹痛，下痢など)：おゝむね，神経症状に先立つておこる。
2. 神経症状
   a. 急性または亜急性に発現する。
   b. 知覚障害が前景に立つ。両側性で，下半身，ことに下肢末端につよく，上界は不鮮明である。とくに，異常知覚(ものがついている，しめつけられる，ジンジンする，その他)を伴ない，これをもつて初発することが多い。

参考条項

(必発症状と併わせて，診断上きわめて大切である)

1. 下肢の深部知覚障害を呈することがゝい。
2. 運動障害
   a. 下肢の筋力低下がよくみられる。
   b. 錐体路徴候(下肢腱反射の亢進，Babinski 現象など)を呈することが多い。
3. 上肢に軽度の知覚・運動障害を起こすことがある。
4. 次の諸症状を伴なうことがある。
   a. 両側性視力障害　b. 脳症状，精神症状
   c. 緑色舌苔，緑便　d. 膀胱，直腸障害
5. 経過はおゝむね遅延し，再燃することがある。
6. 血液像，髄液所見に著明な変化がない。
7. 小児には稀である。

左欄の各項目について，上記患者経過中の該当する症状の有無につき，下欄のあてはまるところの数字をすべて○でかこんでください。数字は集計のためのもので特別の意味はありません。

必発症状

1. 腹部症状
   1. あり (2. 腹痛　3. 下痢　4. その他＿＿＿＿＿＿)
   5. なし　0. 不明
2. 神経症状
   発現状況：6. 急性又は亜急性　7. 徐々　0. 不明
   知覚障害：8. あり〔9. 両側性(必ずしも対称性でなくてもよい)
   10. 下半身につよい　11. 上界不鮮明〕
   12. なし　0. 不明
   異状知覚：13. あり (14. ものがついている　15. しめつけられる
   16. ジンジンする　17. その他＿＿＿＿＿＿)
   18. なし　0. 不明

参考条項

1. 下肢の深部知覚障害(位置覚　振動覚など)
   19. あり　20. なし　0. 不明
2. 運動障害
   下肢の筋力低下　21. あり　22. なし　0. 不明
   錐体路徴候　23. あり (24. 下肢腱反射の亢進
   25. Babinski 現象
   26. その他＿＿＿＿＿＿)
   27. なし　0. 不明
3. 上肢の運動障害　28. あり　29. なし　0. 不明
   〃 知覚障害　30. あり　31. なし　0. 不明
4. 両側性視力障害　32. あり　33. なし　0 不明
   脳症状，精神症状　34. あり　35. なし　0. 不明
   緑色舌苔　36. あり　37. なし　0. 不明
   緑便　38. あり　39. なし　0. 不明
   膀胱，直腸障害　40. あり　41. なし　0. 不明
5. 経過の遷延　42. あり　43. なし　0. 不明
   再燃　44. あり　45. なし　0. 不明
6. 血液の異常所見　46. あり　47. なし　0. 不明
   髄液の　〃　48. あり　49. なし　0. 不明

スモン調査個人記録コード一覧表

＊新様式調査票のみで記録された項目
＊＊旧様式調査票のみで記録された項目

コード№	項目	コード
1	提出府県№	2けたの府県№　1～46
2	個人№	府県別に4けたの　一連番号
3	調査票の提出時期	44：昭和44年度末集計時までに集まったもので初診が44.1.1.以降のものを除く。 45：前回集計時までに集まって初診が昭和44.1.1以降のものおよび前回集計後に集まったすべての個人票
4	施設№	府県別に3けたの　一連番号
5	姓名の頭文字	ローマ字の頭文字を　姓2けた　名2けた 計4けたの数字に変換したもの　A：11 B：12　C：13　・・・・・Z：36
6	性	0：不明　1：男　2：女
7	出生時年号	0：不明　1：明治　2：大正　3：昭和
8	出生年	2けたの数字　00：不明
9	出生月	〃　〃
10	出生日	〃　〃
11	初診時満年令	〃　〃
12	職業	00：不明　01：医療従事者 02：管理的職業　03：事務 04：販売　05：農林業 06：採鉱採石　07：運輸通信 08：工員　09：サービス 10：分類不能の職業　11：主婦（69才まで） 12：01，02以外の専門職 13：漁業　14：その他，無職 15：学生
13	現住所府県	項目1と同じ
14	現住所市区町村	自治省都道府県市区町村コード（昭和45年4月1日）の第3けた，4けた，5けた，および検査数字の計4けたを用いた。

コードNo.	項目	コード
15	発病地府県	項目1と同じ
16	発病地市区町村	項目14と同じ
17	腹部症状発現年	2けたの数字　00：不明
18	腹部症状発現月	〃　〃
19	神経症状発現年	〃　〃
20	神経症状発現月	〃　〃
21	初診年	〃　〃
22	初診月	〃　〃
23	初診日	〃　〃
24	診断の確実性	1：確実　2：容疑　（不明はすべて2：容疑として処理した）
25	受療状況	0：不明　1：入院　2：通院　3：その他
26	歩行	0：不明　1：不能　2：かろうじて可 3：ほぼ正常～正常
27	視力	0：不明　1：全盲　2：低下　3：正常
28	経過	0：不明　1：死亡　2：悪化　3：不変 4：軽快　5：治ゆ
29	家族からの発病	0：不明　1：あり　2：なし
30＊	腹部症状の有無	〃
31＊	(項目30→1のものについて) 腹痛の有無	1：あり
32＊	(項目30→1のものについて) 下痢の有無	〃
33＊	(項目30→1のものについて) その他の腹部症状の有無	〃
34＊	神経症状の発現状況	0：不明　1：徐々　2：急性または亜急性
35＊	知覚障害の有無	0：不明　1：あり　2：なし
36＊	(項目35→1のものについて) 両側性かどうか	1：両側性
37＊	(項目35→1のものについて) 下半身につよいかどうか	1：下半身につよい
38＊	(項目35→1のものについて) 上界不鮮明かどうか	1：上界不鮮明
39	異常知覚の有無	0：不明　1：あり　2：なし
40＊	(項目39→1のものについて) ものがついている	1：あり

コード№	項　　目	コ　　ー　　ド
41＊	(項目39→1のものについて) しめつけられる	1：あり
42＊	(項目39→1のものについて) ジンジンする	〃
43＊	(項目39→1のものについて) その他の異常知覚の有無	〃
44＊	下肢の深部知覚障害の有無	0：不明　1：あり　2：なし
45	下肢の筋力低下の有無	〃
46＊	錐体路徴候の有無	〃
47	(項目46→1のものについて) 下肢腱反射の亢進	1：あり
48＊	(項目46→1のものについて) Babinski　現象	〃
49＊	(項目46→1のものについて) その他の錐体路徴候の有無	〃
50＊	上肢の運動障害の有無	0：不明　1：あり　2：なし
51＊	上肢の知覚障害の有無	〃
52＊	両側性視力障害の有無	〃
53＊	脳症状・精神症状の有無	
54＊	緑色舌苔の有無	〃
55＊	緑便の有無	〃
56	膀胱・直腸障害の有無	〃
57＊	経過の遷延	〃
58＊	再燃の有無	〃
59＊	血液の異常所見	〃
60＊	髄液の異常所見	〃
61	提出府県ブロック別	1：府県№1　2：№2～7　3：№8～14 4：№15～21　5：№22～24　6：№25～30 7：№31～35　8：№36～39　9：№40～46
62	現住所ブロック別	〃
63	発病住所ブロック別	〃
64	初診時満年令3区分別	1：0～39才　2：40～59才 3：60才以上　4：不明
65	腹部症状→神経症状の期間	(〔後者〕－〔前者〕)の月数に50を加える 腹部S40.1，神経S46.5のときは6年4カ月＝ 76カ月→76＋50＝126となる

コードNo.	項　　目	コ　　ー　　ド
66	腹部症状→ 初診の時期	〃
67	神経症状→ 初診の時期	〃
68	出生時年号＋出生年の複合コード	項目７×100＋項目８
69	出生月＋出生日の複合コード	項目９×100＋項目10
70	姓のローマ字頭文字	項目５の姓の部分のみ
71	名のローマ字頭文字	項目５の名の部分のみ
72＊＊	初診時の知覚障害の部位	0：不明　1：下腹部以上　2：そけい部以下 3：足首以下　4：その他
73＊＊	初診時の運動障害（その他）	1：記入あり　2：記入なし
74＊＊	初診時の膝蓋腱反射	0：不明　1：亢進　2：正常　3：減弱 4：消失
75＊＊	初診時のアキレス腱反射	〃
76＊＊	初診時のその他の神経症状	1；記入あり　2：記入なし
77＊＊	経過中の神経症状の増悪	0：不明　1：あり　2：なし
78＊＊	調査時の視力	0：不明　1：全盲　2：低下　3：正常
79＊＊	剖検	1：不明　2：あり　3：なし
80	初診時満年令 5才区分別	0：不明　1：0～4才　2：5～9才 3：10～14才　4：15～19才　5：20～24才 6：25～29才　7：30～34才　8：35～39才 9：40～44才　10：45～49才　11：50～54才 12：55～59才　13：60～64才　14：65～69才 15：70～74才　16：75～79才　17：80才以上
81	発病地の市郡別	0：不明　1：7大都市　2：その他の市 3：郡部
82	医師の意見	1：記入あり　2：記入なし
83	腹部症状→神経症状の期間 （10区分別）	0：不明　1：同時期以前　2：同時期 3：1カ月　4：2カ月　5：3カ月 6：4～6カ月　7：7～12カ月　8：13～24カ月 9：25～36カ月　10：37カ月以上
84	腹部症状→初診の期間 （10区分別）	〃
85	神経症状→初診の期間 （10区分別）	〃
86	予備	
87	〃	

コードNo.	項　　目	コ　　ー　　ド
88	予　　備	
89	調査個人票の様式	1：旧様式（第1回全国調査のみに使用）　2：新様式
90	同一個人の重複結合	1：重複なし　　2：2枚重複 3：3枚……25：25枚以上
91	氏　　名	片かなで　姓　名